

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200107		
法人名	社会福祉法人 愛育福祉会		
事業所名	グループホームめばえ		
所在地	岡山県倉敷市連島町鶴新田1952-1		
自己評価作成日	平成29年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200107-00&PrefCd=33&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成29年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

音楽療法、生け花、お茶会等利用者が昔から嗜まれていた事を活動で提供しており、先生は地域の方にお願ひしています。グループのめばえ保育園園児と交流の機会も確保し、週に1回は遊びに来てくれふれあいの時間を楽しんでいます。年間行事の中にも2回保育園交流会をもうけ、一緒に運動会をしたり、ゲームやクイズをします。保育園児を迎えるためにプレゼント作りを行い、日々の楽しみになっています。他にも特別養護老人ホームめばえと合同でレクリエーションや手作業、絵手紙教室を行っています。特養めばえにお邪魔して利用者と活動することにより気分転換が図れ、又違う刺激を感じていただいています。また、季節の行事、花見や紅葉狩り以外にも気候に合わせて散歩や外出、買い物計画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今から十年以上前だったか、岡山県がユニバーサルデザインの方針を推奨し始めて、高齢者と子供の交流事業も重視される気配を感じたのに、期待外れだった。が、今日このホームを訪問して私の願いを叶える所が見付けられたと思った。以前は保育園を経営していた事や、人の心の有り方を基本理念としたこのホームの姿勢は、私達ライフサポートの理想と重ね合わせられる。外部講師やボランティア等の指導によるアクティビティの計画は数多く準備されており、特に現在は自立に近い人が多いのでリハビリや生きる意欲・喜びに大きく貢献しているに違いない。今日の午後も生け花教室があり見学させてもらった。「お花の時は心が喜びます」「子供達とお点前どうぞも楽しいよ」等話してくれる人もいた。各種記録も多く見られ、このホームの基本理念と実践に感動した。このホームの様に、医療面のケアはもちろんの事、認知症ケアの基本とも言える「心のケア」を重視したホームが増えて欲しいと願っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の掲げる理念を基にして、年間の目標を立てて職員全員が理解して実施できるようにしている	基本理念の五徳(五つの素直なところ)を玄関に掲示し、地域の高齢福祉を展開していく上での指針としている。各ユニットで毎月の目標を決め職員間で検証しながら実践している。職員のモチベーションも高く、スキルアップを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のゴミステーションの掃除当番を年に1回くらい行っている。時に近所のスーパーで買い物をしている。季節の良い時には近隣を散歩し、挨拶を交わしている	創設以来、地域とのつき合い、子供達との交流を大切にしており、行事の時はもちろんの事、日常的に保育園児との触れ合いがある。近年では世代間交流にも力を入れ、地域のボランティア・園児・利用者等が一体となった活動を展開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	突然の来訪者の相談や見学に快く対応できるようにしている。必要に応じて支援センターにつなげるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加してくれている地域の民生委員に地域の状況を聞いたり、近隣の病院の地域連携室の室長や他グループホームの管理者とも情報交換して、必要と思ったことは職員と検討してサービスに生かす様にしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議は多彩なメンバーで構成されており、ホームの現状や活動内容をよく理解してもらっている。参加者から「外部評価とは何ですか?」という質問があり詳しく説明した経緯も議事録に記されていた。	定期的に多くの参加も得て適切な運営推進会議を実施しているが、内容的には報告及び情報交換が中心となっていると思われる。今後はこれらに加えて運営やサービス等に関する話し合いをしてサービス向上につながるようにしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いているので事業所の報告をしている。分からない事は積極的に連絡を行い、関係作りを行っている	市の担当者と定期的に会議で情報交換をしており、市主催の研修会にも積極的に参加して連携をとるように努めている。書類等何か分からないことがあれば、気軽に相談に乗ってもらえる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関もユニットへの出入り口も施錠していない。夜間転倒の危険がある方も行動が把握できるように職員同士で行動の特徴を話し合い、布団に鈴を付けさせていただくことで行動が把握できるように対応している。月の会議では日常ケアの確認を行っている	飼いや犬の事が気になり、利用者がシルバーカーで自宅まで帰っていた時には、法人の連絡網を駆使して探した例もある。職員は日頃から声かけを徹底したり、身体拘束・高齢者虐待防止の研修をして意識付けをしている。また、情報を法人の各部署に配布し協力体制をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアが虐待に当たらないか確認を行っている。外部での研修にも積極的に参加し、内部研修でも課題に取り上げ、自身の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者が1名おり、こういうものとは理解できている。内部研修にも取り上げ理解を深めている。必要性があるご家族に話をするようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や内容の改定がある時には家族にわかりやすい説明が出来るように努めている。退居の場合も何度もご家族と話し合っている。改定等は新しい重要事項説明書や用紙で説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を聞いたり、玄関にも意見箱を設置している。片ユニットで出た意見も両ユニットで話をしている。苦情処理担当者を設け、重要事項説明書でも案内している	運営推進会議に家族の参加があり、意見交換をする機会がある。行事の様子・毎月の予定表・状況報告等を家族にお知らせして良い関係作りをすると共に、家族の面会時には積極的に意見や要望を聞いて運営に反映させている。	それぞれの家族とはよい関係を保ち続けているので、縦の関係だけでなく、家族同士の横の関係もつながる事も考えてみたい。運営推進会議への家族の参加も少しずつ増やしていきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は代表者に毎月の勤務表を提出している。職員個々の実績や勤務状況、または本人の要望をその都度伝えている。日頃の勤務状況を見ながら必要を感じたら個人面接を行う	担当者の発案で他ホームの見学・交流が実現し、職員にも良い刺激となっている。職員の年齢層も幅広く定着率が良いのでお互いに気兼ねのない関係にあり、意見や要望が通りやすい体制もある。職員間のコミュニケーションもよくとれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境により、その時に働きやすい勤務状況になれるように配慮している。向上心のある職員には実績を積んで資格を取る事をすすめ、条件も考慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や経験、向上心等に合わせて、研修や資格取得について情報提供を行っている。法人内研修にも職員が平均的に参加できるように勤務状況を配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の情報があれば出来るだけ参加できるようにしている。また地域の医療と福祉の交流会にも参加して他のグループホームの参加者と交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と面接を行い、共同生活に対応できるか判断している。また家族から在宅生活での様子などの聞き取りも行い、入居について職員で話し合いを行う。入居してからは出来るだけ本人のペースで生活してもらるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談から、入居まで何度か家族と面会する機会を設けている。入居後も面会時に要望などを聞き、職員間で共有するようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時点で緊急性があるかないか見極め、情報提供したり、支援センターに繋ぐなどしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり畳んだり、食事作りの準備や盛り付け、食後の皿洗いなど職員と一緒にやっている。業務優先にならないように利用者のペースに合わせて行うように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況によって可能な方は病院受診、美容院や自宅への外出、外食等、家族と共にしてもらっている。また、面会に来られた時、衣替えや居室の整理などを一緒に行う家族もおられる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、自宅にいる愛犬を見に行く、かかりつけの病院等に対応している。年末には家族や馴染みの方に年賀状を書いて送っている。面会時には居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮している	馴染みの場所や関係を大事にし出来る限り応援をしている。孫やひ孫を連れて来たり、兄弟姉妹が面会に来てくれるなど家族の絆が強い人も多く、馴染みの関係継続に向けて職員もしっかり支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方や意思疎通が難しい方も職員が仲介に入り良い関係が築けるように努めている。利用者同士合う合わないがあるので席も考慮して穏やかな生活が送れるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養などに転居される場合には情報提供を行っている。退居後も家族がボランティアで来てくれている方もいたが、関係を続けるのはまれである。地域の中で家族と会う事もあるので、その後の様子を尋ねたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で思いを聞くようにしている。可能なことは実現できるように努めている。意思疎通の困難な方は表情や時に話される言葉で希望を汲み取るようにしている	一人ひとりの言葉に耳を傾け、自室に飼い犬の写真を飾りいつも気にかけている人に対しても安心してもらえるような言葉かけをしている。ある人の「主な支援経過」に、どう対応、返答したかという記録もあり、本人の思いや意向をしっかりと受け止めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントし、情報を職員間で共有するようにしている。入居後は日々の生活の中で得た情報やご家族との会話の中で聞いたことも記録するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で気付きがあれば記録に残している。急を要する場合はリーダーや管理者に報告している。いつもと違う様子に気づけるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス・モニタリングで上がった事の現状把握を行い、新たなニーズは無いかと話し合っている。御家族にも伝え、ご家族からの希望を聞き計画書に反映している。	利用者の担当制があり、アセスメント・モニタリングをして職員間で話し合いプランを作成している。プランの本人意向欄には思いや願いが具体的に書かれていて、精神面・心理面を重視した内容になっており、身体面に加え、「心のケア」を中心にしたプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録は当日の勤務者が行っているが、モニタリングは担当者が行い、カンファレンスで話し合い、ケアの見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況によって受診など家族が困難な場合には事業所に対応している。本人の個別の買い物も原則家族に依頼するが、事業所が代行したり、本人と一緒に出かけたりもしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の身内の方に生け花を教わって、地域の方には保育園の子供達と一緒にお茶を教えてもらっている。活動に参加することで楽しく過ごす事が出来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は基本的には家族に対応してもらっている。受診する科によっては職員の同行や事前にFAXを送るなどして日々の状態を伝えている。家族が出来ない場合は職員が付き添ったり、往診を利用している	従来のかかりつけ医を受診する人が殆どで、家族が難しい時は職員が同行しているが、家族の受診付添いを基本とし往診もある。精神科の場合には利用者の症状をよく知っている職員が付き添う事になっている。訪問看護、訪問歯科の利用もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間の様子や変化を記録にまとめ、訪問看護師に相談、助言をもらっている。必要な場合は医療機関を受診している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、情報提供を行っている。入院中は様子を見に行ったり、家族から状態を聞くようにしている。退院前は病院の相談員から情報を聞き、退院後スムーズに当施設での生活に戻れるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当施設では終末期対応が出来ない事を説明し、同意を交わしている。重度化した時は家族と話をする機会を設け、受け入れ先など今後に向けての話をしている	同法人に特養があるので、重度化や医療が必要になった場合は、入院又は特養へ移行する人が大半である。基本的には看取りケアはしない方針で、家族にも説明し同意書をもらっている。利用者の入れ替わりもあり1年前と比べ軽度の人が増え、全体的にアクティブになった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先、既往歴、服薬説明書をセットしたファイル、職員連絡網、対応マニュアルを準備している。看護師や訪問看護師に対応し方のアドバイスを受けている。また、緊急時例の対応法も内部研修で取り上げている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。また、地震・津波を想定した避難訓練を法人全体で行っている。計画書も立て、利用者も一緒に行っている。結果を反省、考察し、記録に残している	消防署立ち会いの下で水消火器を使用して初期消火の訓練をした。法人合同の避難訓練をして協力体制も出来ている。倉敷市洪水・土砂災害ハザードマップが事務所内に掲示しており、災害時の避難場所やルートも日頃から確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ聞き取りやすく分かりやすい言葉で、性格に合わせて行っている。配席、入浴順、排泄時には本人の思いを考慮し対応している。	メルヘンのパンの移動販売車、今年度からはヤクルト販売もホームに来てくれるようになった。利用者が自分で選び買い物をする。財布を持っている人もいて、一人ひとりを尊重し、自己決定をもらっている。また、役割意識や、やりがいを持ってもらおうと日直を作り、当番制にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中やその時の表情を見ながら本人の思いや希望を汲み取るように声かけしている。その中で「〇〇に行きたい」「〇〇を食べたい」等の訴えがあれば出来るだけ実現できるよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動への参加を促したり、散歩や外出の声かけを行うが、無理強いはせず基本的には本人のしたいように過ごしてもらっている。日中居室で横になっている時間ばかりにならないように工夫している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理美容に来てもらい、好みに応じた散髪を行っている。外出時には服を一緒に選んで頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は配食を利用しているが、誕生日や行事の時は外食に出かけたり、職員が手作りしている。手伝える利用者には出来る事で役割を分け、手伝ってもらっている。	以前は毎食職員の手作りだったが、現在は外部からの配食を併用している。手作りの日もあり、利用者の希望も取り入れユニット毎に献立も違う。配食を導入した事で職員の負担が減り、その分の時間の還元として日々のレクに力を入れ始めたと言った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回確認し記録に残している。水分は1日1000ccを目標にしている。必要に応じてロミ剤を使用したり、味に変化をつける、こまめに提供する等利用者の状態に合わせて摂取できるように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行っている。声かけだけでは出来ない方には付き添い、動作を指示したり、介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。夜間は義歯洗浄剤に浸けるようにしている。必要時には訪問歯科の依頼を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方も介助が必要な方もチェック表に排泄時間を記入している。介助が必要な方は排泄パターンや間隔を見てトイレ誘導をしている。また、ソワソワしたり徘徊を始める等利用者からのサインも見逃さないようにしている	今は軽度の人が増え、排泄が自立又は自立に近い人も数人、日中は布パンツで過ごしている。用心の為にリハビリパンツ着用の人もいるが殆ど失敗はない。紙オムツ使用の人はいない。男性利用者もトイレに座っての排泄を基本とし、適宜声かけや誘導をして自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に乳製品を摂ってもらう、体操に参加し体を動かす、水分をしっかり摂っていただくなど行っている。排便の観察、記録を行い、主治医に相談したり、下剤の調節を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2回を目安に入浴を行っている。時間や声かけのタイミングに工夫している。利用者に合わせ本人のペースで入浴していただいている	寒い季節になった事もありこの秋から週2回とし、午前中に入浴している。自室のカレンダーに「フロ」「便」を記入し自己管理している人もいた。入浴拒否のある人に対してはシャワー浴や足浴等、あの手この手でお誘いし困っている事例はない。柚子湯で楽しむ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は特に決まっていない。利用者のペースで過ごされている。夜間不安な方や、落ち着かない方は居室やフロアで一緒に過ごして頂き、眠気が来た時に居室に誘導して休んでいただく。居室でも一緒に過ごす事もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際にはノートに記入し、職員全員が把握できるようにしている。配薬ミスが起こらないように分割された薬ケースを使用し、服薬前には日付け、名前を口頭で読み上げている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法、生け花教室、お茶会の時間を定期的に設け参加を促している。また、同法人の事業所で行うアクティビティーにも参加し、気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い時期には施設周辺に散歩に出かけたり、近くのスーパーに買い物に出かけたりしている。お花見や紅葉狩り等季節の外出は希望に添えるように起案を考えている	季節行事に花見や紅葉狩りなどに出かけ、天気の良い日にはドライブや散歩等、外出を積極的に行なっていくことに取り組んでいる。今は元気な人が多くなり出かけやすい環境になり、地域のお茶会や生け花の展示会に出かける等、外出支援には力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居された時点で金銭管理が出来ない方がほとんどである。当施設にはヤクルトやパン販売が来訪するため欲しい物を選んで頂き、預り金から支払うようにしている。財布を持って安心する利用者は居室に財布を置いている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてほしいと依頼があれば対応している。日常的な手紙のやり取りは見られないが、年賀状を書いたり、家族から届くことがある。敬老会では家族から感謝状を贈っていただいた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内には利用者の作品や、季節の飾りつけを行い、温かい雰囲気づくりをしている。食事では必ず汁物は作っているため、匂いが当たり前のように感じてもらえるようにしている。室温、湿度管理を行っている	リビングは明るく広く、塗り絵の「展覧会コーナー」や子供達の絵も展示してあり寛げるスペースになっているし、両ユニットの間にあるウッドデッキでは夏祭りの催しを楽しんだり、日光浴・外気浴・歌会・ティータイムに活用する等、利用者同士の交流を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置いてゆったりと過ごせる空間を作っている。バリアフリーでフロアからウッドデッキに続いているので、外に出て日光浴をしながらのんびりと過ごす時間が持てる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室のドアには表札を掲げ、自分の部屋だと確認できるように目印にしている。ベッドやタンスは利用者の要望に合わせ使いやすい位置に配置している。壁には写真や手作りカード作品を飾って家族にも見ていただいている。	家族の写真、お位牌、テレビ、化粧品等を持ち込み、家族からのメッセージや習字・ぬり絵等の作品を展示して個性豊かなその人らしい居室作りをしている。個々の症状により医師の指示で日中はしっかり居室以外で活動してもらっている人や物を置かないシンプルな居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の居室のドアには表札を掲げている。移動に援助が必要な方は布団に鈴を付けたり、歩行器などにつけ、行動が把握できるようにしている。トイレも「ノックしてください」「トイレ」と貼り紙をすると分かりやすい様子		